

大麦栽培管理情報 (第1号)

平成27年9月
アルプス農協管内農業技術者協議会

基本技術の徹底により**適正苗立本数を確保し高収量・高品質な大麦を生産**しましょう！

1 ほ場準備（排水対策）

- ・稲刈直後に**排水対策を実施**し、早くほ場を乾かしましょう。(図1)
- ・額縁排水溝と長辺方向に7~8m間隔の溝を設置しましょう。
- ・溝幅30cm, 溝深20cm以上にしっかり作溝しましょう。
- ・排水口は低く掘り下げ、溝に水がたまらないように排水溝を確実に連結しましょう。
- ・心土破碎の実施で透水性を向上しましょう。(図2)

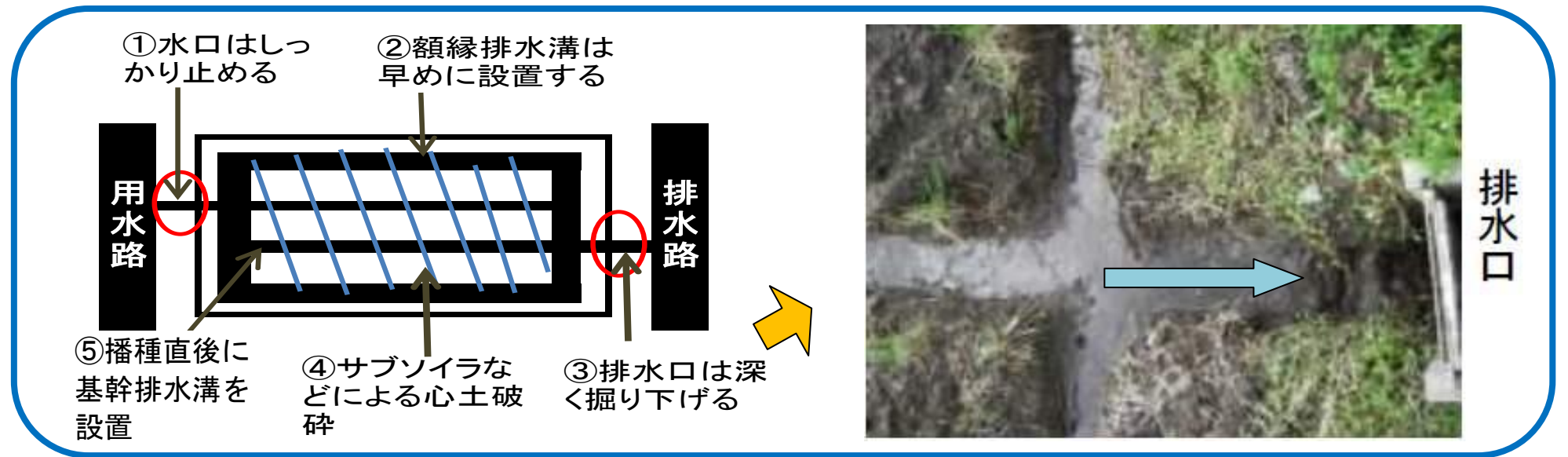


図1 ほ場準備

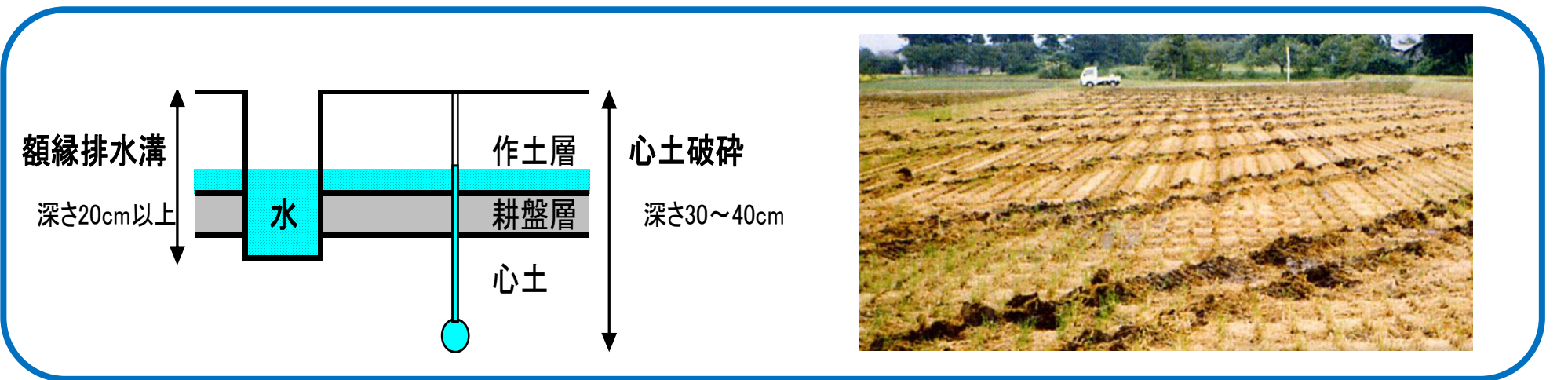


図2 心土破碎

2 施肥

- ・大麦は特に酸性土壌に弱いので、必ず播種前に石灰質資材を施用し、**pH6以上に矯正**しましょう。

散布目的	資材名	土壌別10a当たり散布量	
		沖積土壌	洪積土壌
酸度矯正	粒状貝化石	150~200kg (土壌診断の結果、酸性が強い場合は多めに施用する)	
地力増強	発酵鶏ふん	150kg	100kg
基肥	分施	ハイマックス燐加安 444 40kg	
	一発	LP 大麦 48号 45kg	

3 播種

(1) 種子消毒

- ・病害の発生防止のため、種子消毒を必ず実施しましょう。
- ・消毒後は陰干しで十分に乾燥させてください。

消毒方法	処理方法
薬剤処理	乾燥種子 10kg 当たりベンレートコート 50g を均一に粉衣する
循環式催芽器による温湯浸法	45℃の温湯に入れ、2時間半浸漬する(浸漬時間厳守)

(2) 耕起～播種

- ・砕土率を向上させ出芽率向上を図るため **土の乾きを確認した上で、耕起～播種・作溝までの一連の作業は1日**で行いましょう。
- ・**畦幅3m以内を徹底**しましょう。
- ・溝幅30cm・溝深20cm以上のしっかりした溝を設置し、排水口へ確実に連結しましょう。

(3) 播種量の目安

- ・**播種作業は、苗立本数を確保するため、10月上旬までに**行いましょう。
- ・ドリル播きでは、**播種深度が3cm程度**となるよう調整しましょう。

播種時期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26～30日	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
(10月中旬)	(200)	(8.5)	(9.0)

4 播種後の雑草防除

雑草量の多いほ場では、肥料成分が雑草に奪われ、大麦の生育が抑制されるため、除草剤を適正に使用し、生育量を確保しましょう。

(留意点)

- ・土壌が極端に乾いていると効果が劣るので土壌水分が適正な時に散布しましょう。
- ・大雨が予想される場合は、薬害のおそれがあるので使用しないで下さい。
- ・種子が露出していると薬害のおそれがあるため砕土率を高めるとともに、播種深度3cm程度を目安に、確実に覆土されるよう注意しましょう。



除草剤あり



除草剤なし

除草剤名	使用時期	10a あたり 散布量	使用方法	適用雑草
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前 (雑草発生前)	100ℓ (薬量 200～300mℓ)	土 壌 表面散布	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)
トレファノサイド粒剤 2.5	播種後発芽前	4～5kg		
ボクサー	播種後～麦 2 葉期 (雑草発生前～ 雑草発生始期)	70～100ℓ (薬量 400～500mℓ)		一年生雑草

※表面散播したほ場では使用しないでください